

安田女子中学校（前期）

入試科目		算数	国語	総合
試験時間		45分	45分	-
配点		100点	100点	200点
専願受験者平均点		50.8点	43.3点	94.1点
専願 合格の目安	得点	48点	40点	88点
	(%)	48.0%	40.0%	
併願受験者平均点		76.9点	54.7点	131.6点
併願 合格の目安	得点	61点	43点	104点
	(%)	61.0%	43.0%	

算 数

- 1** 計算問題(1)整数の四則計算 (2)括弧の計算 (3)分数の計算 (4)分数の計算 (5)小数の計算
 (6)工夫する計算 (7)小数・分数計算
- 2** 小問集合(1)売買損益 (2)差集め算 (3)面積(おうぎ形) (4)割合 (5)角柱の体積 (6)平均 (7)角度
 (8)食塩水
- 3** 平面図形 小問数：4 **4** 速さとグラフ 小問数：4 **5** 規則に関する問題 小問数：3

大問数は昨年4題から、1題増え5題の構成になっています。

1は計算問題です。7問のうち5問に小数や分数が入っています。小数、分数の変換をすると計算しやすくなったり、計算の工夫をすることで数字が簡単になったりする問題はありましたが、普段から小数や分数の計算をきっちり練習していれば答えを出すことはできます。過去問演習を行う際には、丁寧に計算することに加え、工夫して計算できそうな

時には工夫する意識を身につけ、見直しまでの習慣をつけましょう。

2は小問集合です。(1)は売買損益、(2)は差集め算の基本問題です。(3)は半円とおうぎ形を組み合わせた面積問題です。かげのついた部分を移動させ、知っている図形にできた受験生は答えを出せたと思います。(4)は割合の問題です。何をもとにするかをしっかり意識していきましょう。線分図を書いて、目で見ても分かりやすくするのも間違いを防ぐポ

イントです。(5)は角柱の体積の基本問題です。(6)は平均の問題です。それぞれの合計を見比べれば、求める得点が出せます。(7)は角度の問題です。折り返しの部分の角度をしっかりとかきこめば難しくありません。(8)は食塩水の基本問題です。

③は平面図形の問題です。比を使っていく問題なので、平面図形と比の練習をしっかりとしていないと全部解くことは難しいでしょう。また、相似の図形をいくつ見つけられるかも問題を解くうえで大切になります。しっかりと対策しておきましょう。(1)は相似の図形が見えれば問題ありません。(2)は相似の図形だけでなく、高さが等しい三角形は底辺の比と面積の比が等しくなることが分かっていることが大切です。③になると、難易度も高くなるので苦戦した受験生は多かったでしょう。

④は速さとグラフの問題です。(1)、(2)の速さの計算は確実に正

解したい問題です。(3)のグラフの問題も文章をしっかりと読んで丁寧にかいていけば難しくはありません。(1)から(3)までの問題はしっかりと速さの対策をしていた受験生は問題なかったでしょう。(4)は、みずほさんとつばささんの動きをグラフに書き込みましょう。

⑤は規則性に関する問題です。(1)は規則さえ把握できておけば、足し算一回で解けます。(2)、(3)の問題は一の位の数を問われているだけなので、問題に書かれている1番目から5番目の図形を見て規則に気づいた受験生は答えがすぐに出せたはずですが、すぐに気づかなくても、6番目、7番目とかいていき、きまりを見つけましょう。

出題内容は基礎から標準の問題がほとんどです。普段からしっかりと単元別の練習をしていれば合格点をとることができる問題になっています。過去問を使って難易度や時間配分に慣れておきましょう。

国語

一 辻村深月	『早穂とゆかり』	(物語文 約 2170 字 小問数 9 問 うち記述 3 問)
二 山極壽一	『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』	(説明文 A 約 1720 字 小問数 21 問 うち記述 3 問)
遠藤薫	『ロボットが家にやってきたら… 人間と AI の未来』	B 約 470 字

昨年の入試日程は一日のみ、専願・併願とも同一日・同一問題での実施でしたが、今年は前期・後期と二回の入試日が設けられ、それぞれで専願・併願入試が行われました。専願・併願とも問題は同一ですが、専願では個人面接が加わります。

設問の構成を見てみましょう。昨年は、漢字とことわざの知識問題・物語文、説明文の大問 3 題構成でした。今年は、物語文・説明文の 2 題構成で、漢字や語句の知識は説明文の大問の中で出題されています。

次に、本文の字数合計・小問の総数を昨年と比較してみましょう。昨年は漢字語句(10 問)・物語文(2100 字・14 問)・説明文(1800 字・10 問)、今年は物語文(2200 字・9 問)・説明文(2200 字・21 問)でした。本文の字数が 500 字増え、小問数が 4 問減りましたが、目立った変化とはいえな いでしょう。

それでは、大問毎に設問の内容を見ていきましょう。

一 物語文の読解問題でした。クラスで人気者の小 6 女子が、学級委員長長の選挙を通して、共に立候補した女子を心ならずも傷つけてしまう場面です。「『委員長、立候補するの?』『しないよ』咄嗟にそう答えてしまったのは、どうしてかわからない。」といった少女の屈折した心理が描かれています。この心理の読み取りが難しかった受験生も少なからずいたことでしょう。出題内容は、心情理解(書き抜き・記号選択)・内容理解(理由記述 60 字、内容記述 15 字・心情説明: 字数指定なし、記号選択)などです。出題は本文の内容の読解に関するもののみで、語句などの知識に関する問いがまったくありません。9 問の内 3 問が記述

(60 字・15 字・字数制限なし)と、物語文の読解力と記述力を問う姿勢が鮮明に出た大問といえるでしょう。日頃の読書や読解演習でも、登場人物の行動と心情を丁寧に読むことを心がけましょう。問いに正しく答えるためには、場面毎の登場人物の心理が正確に読み取れていることが何よりも大切です。

二 説明文の大問は、本文が A (ペットや動物とロボットとの違いを説明した文章)と B (人間とペット動物との共生を説明した文章)の二つあり、A から問一～四、B から問五～七が出題されています。出題内容は、漢字の読み書き・問二では「ペットや動物とロボットは対極的な存在だ」という筆者の主張をフローチャートにまとめた表と二人の女子の会話文を作成し、空欄補充問題を出題しています。筆者の論理展開を受験生がつかめているかを問う、よくできた問題だと思います。説明文を読むときは、常に「筆者は何を述べているのか」を確認しながら読む癖をつけることが大切です。

今年の前期併願入試の国語の受験者平均点は 54.7 点。昨年の 74.9 点から 20 点以上下がりました。これには、物語文・説明文ともに昨年に比べて本文の内容が難しくなったことが影響していると思われます。問題を解くテクニックも確かに必要ですが、一番重要なのはやはり読む力を付けること。よい本をしっかりと読んで、読む力を鍛えましょう。来年の入試に向け、英進館鯉城学院の『中学入試国語出典読書案内』を参考にし、しっかりと読書、しっかりと音読を心掛けてください。

